【第１８号　　２月２３日（火）】

『井戸』一斉学習１０

手をのばして、落ちているものを引きよせて見ると、それは、つぶれたフットボールの皮だった。
「なんだ！何がおっこちてたんだ！」
「フン。」
丑は鼻の先で笑って、口に出してつぶやいた。
「知りたけら、自分でおりて来て見っといいや。」

Ｔ　「フン」ていうのは、おこってるんじゃないね。鼻の先でわらって」　わらえるんですね。
　なんで、笑えるんか？
Ｃ　考えて書き込み
Ｔ　じゃ佐夜子のから聞いてみよう。
佐夜子　フットボールだったから、わらえて来ると思う。みんなで騒いでた結果がフットボールの皮だったから、わらえてきた。
Ｃｓ　いつしょや。
美希はじめは何かしんでるのかと思ったけど、ただのフットボールの皮だったからわらえてきた。
Ｔ　猫の死んだのかなあなんて、みんな大騒ぎしたね。それが、ただのフットボールの皮だった。
Ｃｓ　なーんや。あほみたい。
哲郎　なんかな、馬鹿らしいなってきたん。あんなみんなでな、大騒ぎしててな、たった古いフットボールの皮やったで。
Ｔ　こんなことにみんなは
真人　おびえてた。
力　みんなだけじゃない。自分もや。
大輔　てーぺちゃんとおんなじや。
　うんとな、はじめ、ずっと前は先生が「だれか入ってみるもんはないか」て言うたとき、おびえててな、顔を見合わせてだまってたやん。ほしたら丑にしょうと言うて、先生が丑に決めたやん。ほんならみんな気が入って丑になすりつけたやん。ほんなら、最後につぶれたフットボールの皮やったでな、みんな、ほのときもまだ、なんだなんだていうてるやん。何もしらんとおびえてるでな、みんなおくびょうやなあってわらってるん。
Ｔ　みんなの憶病さは、ここにもあらわれている、ていうてやるんやね。わかる？
菜穂子　はじめは、ねこっこかもしれない、ていうてときは、みんなわからんさかいこわい。なんかわからんさかい。
Ｔ　「なんだ、何がおっこちてたんだ」ていってるみんなの頭の中には、「こわい、おそろしいもの」と　して、いってるんですね。
　ところが、丑は、もうフットボールを見てるわけですね。
　ほうすると、自分はこれを見てる。上のやつらはこわがっておびえている。そういうのが見えた時に
和幸　馬鹿らしくなってくる。
Ｔ　だれが。自分がか？
Ｃｓ　みんなが。
力　ぼくは大ちゃんらとちょっとちがうんやけどな、ぼくは、おっこってるもんがこわかったんではなくてな、入るのがこわかったんと思う。
　ほやさかいに、別に中のもんがなんだったとしても井戸がこわなかったら、入っていったと思う。

T　ああ、力のいうのは、井戸のこわさがあるということだね。力のいうことも大事なことだね。
　まず第一になによりもこわいのは、「井戸」がこわいんやな。
　「何だ……」ていってる時上から見てるみんなに丑の姿は見えてるの？
Cs　見えてない。
T　見えてないね。真っ暗の中に丑がどうしているのかわからない。そういう井戸のおそろしさと、何か 得たいの知れないものの両方におびえている。
　だけど丑には見えている。得たいのしれないものはフットボールの皮。真っ暗な穴は
保　ただの井戸
T　そう、ただの井戸なんだ。
真人　ばからしい。
力　丑はもうこわくない。
真ひと　井戸に入る勇気がないのに丑はな、みんなは井戸に入る勇気がないのにそんなえらそうな言い方 してるでな、なんか、おかしくなってくる。
T　ああ、これもおもしろい。もうちょっと言って。
真ひと　えっとな、みんな丑におしつけといてな、ほんで入る勇気がなかったやん。ほんな、ただの井戸やのに。そやのに、「何だ、何がおっこちてたんだ」てえらそうに言うたでな、なんかおかしいような気がするの。
T　非常に大事なこといってる。わかる人。
保　入る時にな、はよう丑にはいらそうと思ってなすりつけてたやん。はよう入れはよう入れてよ。ほんで
　ちゃんと丑がはいってるのに、その上にえらそうにきいてるで。
T　うん、もうちょっとはっきり言って。真ひとがとっても大事なこと出してるんだから。
裕幸　あんな、丑にはもうわかってるやろ。井戸に何が落ちてるかって。ほやのに、上のみんなはわから
　んで、「何だ何がおっこちてたんだ」て心配してるやん。ほんでな、フットボールの皮てわかってるのに 、上でみんなはこわいもんばっか言うてるやん。ほんでわらえてくるの。
T　うん、それは、みんなの心の中やな。
　真ひとは、その上に、そういう人間であるのに、丑に対しては、「何だ、何がおっこちてたんだ。」て、えらそうに見せている。
C　いばってる。
大輔　まるで自分らが大将みたいに。
T　おくびょうなくせにからいばりしている。それが丑にははっきり見える。
大輔　権八みたいや。（木竜うるし）
T　ああ、まさに権八やね。
　志穂がさっき書いてたこと言って。
志穂　自分が見たかったら下におりてこいというように馬鹿にしている。
T　そう馬鹿にしてるわけだね。
和幸　自分より下のやつやでな。
真人　自分も馬鹿馬鹿しくなってきた。あんなやつらにいじめられてたんかって。
T　おもしろいね。言って。
真人　あんな、自分はあんなおくびょうなやつらにいじめられてたんかって。
和幸　ほれやったら自分が情けないという感じやんか
大輔　まーちゃんの言うてるのわかる。
　今はみんなをばかにしてるやん。ほやけど、ずっと前までは、なんであんなやつらにいじめられて
　たんかな、てあほらしいなってきたん。
T　そうそう。これも大事なことだね。みんなが見えると同時に自分も見えてきた。なんであんなやつらにびくびくしてたんかなって。
　ほうすると、たったこれだけ（フン）の言葉を考えるのに、今までの勉強が全部つながってきますね。
　おもしろいね。
　じゃ、ここがわかれば、次からもわかるでしょう。
（朗読）つづいて、先生の声が聞こえた。
「丑松！なんだった……」

ここの……には先生のどんな心がある？
暢子　おそろしいの。まだなんかわからんで。
和幸　先生もみんなと同じでおくびょうやでな、こわいさかいな、
智士　先生もこわかって、自分から何にも言えんかったん。
大輔　丑が言うのを聞くのがかなんの。
T　聞くのがかなんって？
大輔　丑が最後になんかいうやん。それを聞くのがかなんの。
（大輔の言いたいことがよくわからなかった）
T　……には暢子が言ったように、先生のおくびょうな心があるね。
それに対して、丑は「死んだねこっ子でやんす」といってる。どうしてこんなことといったんだろうか。
和幸　先生にも仕返しをした。
T　佐夜子どう。
佐夜子　フットボールの皮やった時から、なんかわからんけど勇気が出てきた。
T　ほう。勇気が出てきたらなんでこんなことというのかねえ。
真ひと　えっとな、先生はな、みんながこんなただのフットボールの皮にな……になってな、「なんだった」て聞いてるでな、ほんで、おかしいなっていじわるがしたいうなったいうか……
弘子　井戸に入るとき先生まで丑になすりつけたから先生にもいじわるした。
T　仕返し？
弘子（うなづく）
勇也　仕返しちゃうわ。
T　あら、仕返しちゃう、という人もあるよ。
哲郎　先生も、なんかにくたらしいなってきて、
T　ああ、仕返しにちかいかな。
真ひとが言ってるのは、ちょっとちがうね。仕返しというよりも、なんか、おもしろくなってきた
勇也　わかった！みんな、何だ何がおっこちてたんだ、てこわそうにゆうたやん。ほれで先生もなんかおどろいてな、みんなにつられてるようにこわそうにゆうてる。
T　うん、そんなのを見ているとおかしくなってきた
はい、寛子
寛子　丑は、つぶれたフットボールの皮やったやん。ほやけど、先生はまだ「なんだった……」ておびえそうな感じで言うてるさかいな、おもしろくなってきたん。
T　わかる？ちきしょう、ここで仕返ししたろ、というよりも、こんなことにあわてる先生たちがわらける。そういう気持ちから、ついからかいたくなる。
裕幸　丑はフットボールの皮てわかってるやろ。でも上では「なんだ……」ていろいろ心配して聞いてるやろ。ほんで、先生が聞いてきた時に、ついでに先生もおどろかしたろう、ておもしろがってるの。
真人　どうせ上へ行ったらばれるけどな、みんなはほんな弱いのやでな。
T　もうみんなをおそれていないのね。
智士　みんなの弱いのをみたいの。
美豊子　丑は、みんなのおくびょうなことがわかったから、先生までが「丑松なんだった」て心配そうに言うてるさかいな、丑に聞いてるさかいな、先生やみんなにあきれてきてな、あきれてきておもしろくなって、ほんでからかいたくなったん。
善崇　ぼくはな、やっぱり、いっぺんだましてみたいのや。今まではだまされてきたり、何でもやらされてきたけどな、いっぺん、ほういうこともしてみたかったの。
Cs　おんなじ。
力　いっぺん、いじめっていうのをしてみたかったの
T　今までやられてきたお返しがしてみたかった。それもあるでしょうね。
勇也　先生もこわそうにいうてるやん。丑にはたったのフットボールの皮やのに、なんで先生もこわそう
にいうてるんやろって丑の心で思ってる。
T　はい、今までの話合いを1分間でまとめて。
C　作業
T　つづき朗読

「そりゃいかん！早くつるべっ中さ入れてひきあげろ。」
大輔　そこそこ。もう丑はあほらしいなってくる。
T　そうそう、だから、「きたねえからおらやだなあ」て
C　よけ、おもしろい。
T　「せっかくおりたんじゃないか。がまんしてもってこう。」
今まで丑に命令してたんだけど、もう
真人　もう丑に交替してる。
保　立場がまったく逆。
T　続き朗読
「丑は、ニヤニヤ笑って」
このニヤニヤは、仕返しできたうれしさだって、前いってたけど、そうですか。
Cs　ちがう
幸則　自分がうそついたこと本気にしてワアワアさわいでるでおもしろいの。
Cs　おんなじ。
智美　丑がうそついたのに、先生らが本気にしてるでニヤニヤ。
勇也　なんか、自分がだましたことに先生らがおどろいてるでニヤニヤ。
大輔　みんながだまされたこともしらんとまるっきり本気にしてるで
T　このニヤニヤは、自分のうそにだまされているからニヤニヤ。それだけですか。
C　……
T　そのあとにこう書いてるでしょ。
「フットボールの皮をきたなそうにつまみあげるとそれを足の下のつるべにぶちこんだ」
フットボールの皮ってきたないの？
C　きたのうない。ただ古いだけ。
T　古いだけでしょ。それをきたなそうにつまみあげる。そして、足の下のつるべにぶちこんだ。　ぽちょんと落とせばいいのに、ぶちこんだ。
さあ、ここには丑のどんな心がある？
ちょっとそこ考えてごらん。
「ニヤニヤ」は、ここからも考えてほしいの。
「フットボールの皮をきたなそうに」
「ぶちこむ」
C　（考える）
亜紀子　なんか、ざまあ見ろ、ていう感じ。みんなおびえたりしてるさかい、なんか自分のほうが強い、ていう感じがして
真人　このフットボールがみんなみたいなかんじがしてるの。
T　あ、すごいこと言った。・
（テープ不明）
みんなそこ、もうすこし言えない？このフットボールの皮がみんなに見えるって。
Cs　口々に言い出す
美豊子　このフットボールの皮はきたないし、古いさ　かい、みんなもみすぼらしいさかい、ばかにしてる
T　わかる？フットボールの皮がみにくい、おくびような
Cs　みんなの心！
T　そんなものを示している。